

若いなかま

若いなかま No.185

2012(平成24)年 11月15日 発行

発行 (社)福岡県青少年育成県民会議

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番50号
吉塚合同庁舎6F

TEL(092)643-6001 FAX(092)643-6003

E-mail : net.y.d@isis.ocn.ne.jp

ホームページ : http://www.fayd.jp/

小・中・高校生等をつなぎ、育てる 野外学習！

試そう 経験！ つけよう 自信！ 見つめよう 未来！



34回目を迎える青少年育成県民会議の「小・中・高校生等をつなぎ、育てる野外学習」が8月1日から8月5日（4泊5日）まで国立阿蘇青少年交流の家で開催された。阿蘇での開催は3年目で小・中・高・大学生・スタッフを含め89名が参加した。この野外学習のテーマは「試そう経験・つけよう自信・見つめよう未来！」5日間、目標に向かっていろいろなプログラムが組まれている。これまで参加した子どもたちが小学生から中学生へ、また、高校生になって班リーダーに成長。そして、大学生になった卒業生はリーダー指導者として参加している。青少年育成県民会議が目指してきた「次世代のリーダーを育てる」という目標は30数年を経て、今、着実に根を下ろし育っている。

また、課題はあるものの、世代間交流を通じて協調性や指導力、生きる力が育まれるこの事業は他に類を見ない野外学習といえる。

目次

「野外学習」	2
県青少年囲碁大会	3
少年の主張県大会	4・5
家庭の日・オアシス運動入賞作品	6
地域の話	7
新賛助会員紹介	8
事務局だより	8
赤えんぴつ	8



——11月は「子ども・若者育成支援強調月間」です。——

福岡県青少年育成県民会議は、

- ・青少年自らが、次代を担う誇りと責任を自覚し、未来をきりひらき、希望に満ちて生きよう
- ・すべての大人が姿勢を正し、青少年に深い関心と理解を持ち、積極的に青少年の育成に努めるように
- ・県の青少年施策が一層の効果をおよぼすよう、相互の連携を図り、総合的、計画的な活動ができるようにとの願いをこめ、根づよく効果のある県民運動を展開することを目的に結成されました。

大自然の恩恵と脅威を実感！体験！

第34回福岡県青少年育成県民会議 「小・中・高校生等をつなぎ、育てる野外学習」
 時：2012年8月1日～8月5日 場所：国立阿蘇青少年交流の家（熊本県阿蘇市）

今年の阿蘇での野外学習は、特別なものになった。7月初めに起きた北部九州豪雨で多くの犠牲者と被害をうけた阿蘇市周辺はまだその爪痕を生々しく残していた。この野外学習の開催も危ぶまれたがスタッフ、関係者の努力と準備のおかげで実現することができた。プログラムの変更は余儀なくされたが、これまで見てきた阿蘇の大自然の雄大さ、美しさとは裏腹に、大自然の脅威を実感、体験した5日間でもあった。



おやつでスイカを食べました。おいしかったです。

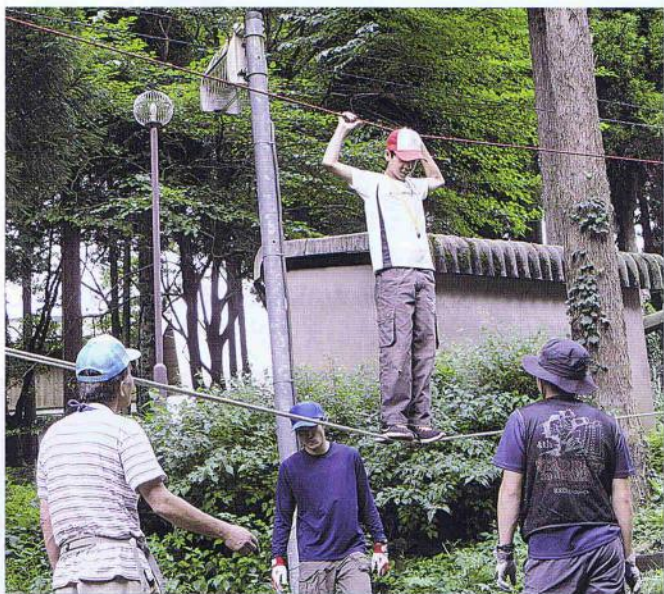
自然を相手に！柔軟に！

阿蘇での野外学習は連続3年目になるが、今年はこれまでとは全く違う風景だった。阿蘇の外輪山をはじめ周りの山々は、土砂で茶色くえぐられた山肌が模様のように点在し、寸断された道路、土石流で埋まった草原は実に痛ましかった。この災害は野外学習にも大きく影響し、沢登りは中止、変更になり、上記の5項目が企画された。中でも難易度の高い「ロープの綱渡り」を始め、全ての感覚と集中力を駆使して臨むものばかり、自分を信じ、友人を信じ、勇

敢に立ち向かう、わくわくドキドキの体験に歓声が上がっていた。そして、最大の挑戦は4日目の「杵島岳」登山。標高1200mだが草千里からは約600m、炎天下と強風にもかかわらず全員が登頂。しかし、頂上は風速10m以上の強風のため昼食を断念。小さな丘超えをして下山、駐車場で持参した弁当を食べ、しばしの休憩を楽しんだ。自然を相手の野外学習は、天気は左右され、特に山の天気は変わりやすく状況判断を間違えると事故に繋がる。今回、色々ハプニングはあったが、自然を相手に、冷静に、柔軟に、臨機応変に対応しなければならぬ野外学習の本質を学ぶことができたのではないだろうか。

5日間のプログラム

- * 1日目・出発式（県庁前）バスで阿蘇へ
- * 2日目 朝食と昼ごはんおにぎりづくり
沢登り中止のためプログラムの変更
- ①ロープで綱渡り（自分を信じて）
- ②マーキング・カモフラージュ（五感）
- ③私は誰でしょう（Wonder・想像力）
- ④忍耐ゲーム（友人を信じて）
- ⑤クラフト作成（午前午後で班ごと交替）
- * 3日目 朝食とお昼のおにぎりづくり
名水探検（阿蘇神社まで4キロ徒歩）
ピザづくり・ナイトハイク（満天の星観察）
- * 4日目 杵島岳登山（草千里までバス移動）
キャンプファイヤー・テントから本館へ移動
- * 5日目 退所準備・感想文作成 退所式
福岡へ解散式（県庁前で）



ロープの綱渡り！自身を信じて！勇気とバランスが大事

ご存知ですか「児童の権利に関する条約」

【条約の主な内容】

- 子どもは、教育を受けることや遊ぶことが認められるべきです。
- 子どもは、自由に考え、信じる事が認められるべきです。
- 家庭環境に恵まれない子どもに保護と援助が与えられるべきです。
- 子どもは、あらゆる差別や暴力、虐待などの不当な扱いから守られるべきです。

お問い合わせ先 新社会推進部青少年課
 TEL 092-643-3387

伝統文化「囲碁」は
考える力を養い、礼節を重んじ心をはぐくむ！

第十四回福岡県青少年
囲碁大会



○ 平成24年8月18日(土)福岡市のパピヨン24ガスホールで開催された囲碁大会は今年で14回目を迎えた。今年には215人の参加があり、各々が登録した部門に挑戦。就学前から高校生まで参加できる異年齢交流対戦ではほほえましい対決も見られた。

○ 今年プログラムの左記のとおり

- 異年齢交流対戦
 - ふれあい囲碁教室
 - 囲碁指導者研修会
 - 講演会(安田泰敏九段)
 - 安田泰敏九段による多面打ちの6項目で、2会場に分かれて開始された。
- 初めて参加した未就学児から、県知事杯を目指す上級者まで、特にメイン会場は終日、緊張感あふれる熱戦が繰り広げられた。

第14回福岡県青少年囲碁大会
知事杯争奪戦 対戦結果

○ 小学生の部

成績	氏名	学校・学年	棋力
優勝	佐々木柗真	中間東小5年	5段
準優勝	福田 啓太	西国分小5年	3段
3位	若狭 光蔵	警固小5年	3段

○ 中学生の部

成績	氏名	学校・学年	棋力
優勝	岡 俊寿	高須中1年	7段
準優勝	寺下龍太郎	筑陽学園中1年	6段
3位	波多野寛太	城西中2年	6段

○ 高校生の部

成績	氏名	学校・学年	棋力
優勝	今泉 佑基	早稲田佐賀高3年	6段
準優勝	塩田真一朗	ひびき高1年	6段
3位	友田 達也	小倉高1年	6段

★ふれあい囲碁教室

初心者を中心に開かれているこのプログラムは安田九段が最も力を入れ、また世界に発信している事業でもある。始めたばかりの5歳の女の子から高校生まで参加。スタッフや保護者も加わって、「一目取られたら勝負あり」の対戦は相手を替えて何局でもできる。対戦数の最多は11回で、2人がチャンピオンに。全勝した人と一番負け数の多かった人にも安田九段の色紙がプレゼントされ、「これからも囲碁を楽しんで欲しい」とエールを送った。

その後、指導者研修会が開催された。

★安田九段による多面打ち

安田九段が多くの子どもたちと同時に対局する多面打ちコーナーは毎年人気のあるプログラムで、今年は14人の子どもがエントリー。

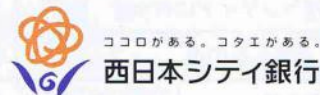
参加した小学校3年生の女の子は、「プロと対戦してみたかった。やはりプロはすごいな」と。

また、親子で囲碁教室に通っている母親は「子どもにプロの打ち方を体験させたかったのが今日の応募の動機」という。

対局後、安田プロの丁寧な個別指導があり、子どもたちは真剣に聞き入っていた。



いつもそこに、いつでもそばに。



今、中学生が訴えたいこと 自分の視点と豊かな表現で



晴れやかな顔の入賞者。おめでとう。

昭和54年の国際児童年を契機に始められ、今年で34回目を迎えた「少年の主張福岡県大会」は過去最多のメダルを獲得したロンドンオリンピックが、閉幕して間もない8月19日に、市制施行30周年となる太宰府市の中央公民館で開かれました。今回、一万二千点余の応募作品があり、各学校、各地域で選抜された一〇二九点の中から、厳正な審査を経て最終選考に残った一五名の中学生が、日常生活の想いや考え、感銘を受けたことを発表しました。

今大会は、太宰府市少年育成市民の会をはじめ、太宰府市、太宰府市教育委員会との共催で開催、太宰府高校の栗原佑実さん、相庭奈美さん、有江由佳さんの三名が司会を務め、「太宰府手話の会」のみなさんの手話と、要約筆記を「太宰府要約筆記の会ちくし」のみなさんの協力で進められました。太宰府市少年育成市民の会の柳原莊一郎副会長の開会のことばから始まり、つづいて右田喜章福岡県青少年育成県民会議会長が、「青少年の成長期にあたる中学生が、日常生活の中でのお会いや想いを自分の目で見、頭で考え、言葉で語るという経験をしていただき、会場の皆様には、今の中学生の考えに理解と関心を示していただくことを目的としています。発表されるみなさんは、自分が福岡県中学生の代表であるという想いで自信をもって発表してほしい」と挨拶、また太宰府市青少年育成市民の会の御田良知会長が開催地を代表して「たくさんの皆さんの前で自分の意見をはっきりと語り、あなた達を支えてくれた先生方や保護者の方の心と一緒に発表してください」と挨拶がありました。

代表の発表テーマは、東日本大震災から学んだことや、命の大切さと家族の絆、現代社会を反映しているいじめや児童虐待、弱者や身体への差別の問題、人と人との繋がり大切さなど多岐にわたるものでした。どの発表も中学生らしい素直な言葉で、会場の聴衆に深い感銘を与えました。

発表終了後には、宇宙航空研究開発機構（JAXA）・宇宙科学研究所で研究員としてイオンエンジン開発と「はやぶさ」運用に従事している細田聡史氏により「小惑星探査機はやぶさに夢を託して」と題して、困難にぶつかって夢を諦めない

優秀賞受賞者

(発表順)

氏名	題名	市町村名	学校名	学年
花田 侑希	自分らしく	中間市	中間中学校	3年
明石 涼香	困難を乗り越え、気づいたこと	中間市	中間中学校	3年
後藤 加奈子	私がいみんなに伝えたいこと	太宰府市	学業院中学校	3年
坂田 旭之輔	ほくらの日本	嘉麻市	嘉穂中学校	2年
原田 明日翔	スポーツの力	太宰府市	太宰府西中学校	3年
武井 梨香	後悔をばねにした夢探し	朝倉市	秋月中学校	3年
大家 裕之	祖父と僕の夢	芦屋町	芦屋中学校	3年
後藤 舞香	将来の夢	中間市	中間南中学校	3年
永原 奈於	ボランティアに行つて	大任町	大任中学校	1年
前原 一心	「福幸」への道	飯塚市	二瀬中学校	1年
川口 惣大	僕の弟	行橋市	今元中学校	2年

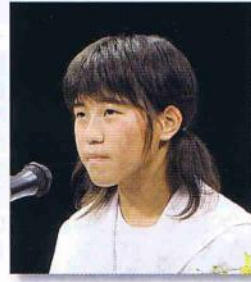
大切さについての特別講演があり、会場の皆さんは未知の世界宇宙への想いに熱心に耳を傾けました。審査の結果、県知事賞には「違いを受け止めて」を発表した、大木町の大木中学校二年の中村愛実さんが選ばれ、11月11日東京で開かれる全国大会に県代表として推薦されました。

また、県教育委員会賞・優秀賞第一席・審査委員会特別賞は次頁に、その他の優秀賞受賞者は左記に紹介します。

次回開催地は、緑と自然の城下まち柳川市で平成25年8月の予定。

県知事賞を受章した中村愛実さんの作品と県教育委員会賞優秀賞第一席、審査委員会特別賞の三人を紹介します。

県知事賞



中村 愛実さん
(大木中学校2年)

「違いを受け止めて」

皆さん、皆さんは、自分の体のことで悩んだことはありませんか。また、みんなとは違うことをどう受け止めていますか。

私の左の頬にはあざがあります。私は幼い頃、このあざのことをあまり気にしていませんでした。しかし、小学校五年生の頃、年下の男の子と話していた時、「何であざがあるの？」と聞かれました。「分かんない。でもたいしたことじゃないよ」と言い返したところ、「でも顔にあざがあるの何か変やん？」と言われてました。私は、「あはは、そうだね」と平気なそぶりをしましたが、心の中ではとても傷ついていました。

また、中学校に入學してすぐ、違う小学校の人から「なんかあざがあると障害者みたいで、変だね」と言われたこともありました。その時まで、私は友だちに恵まれていて、頬のあざなんて気にしていなかったのですが、見かけの違いだけで自分の全てが変わると言われたように、本

当にショックでした。

私は「変だね」と言われ、傷ついた日、インターネットでこの顔のあざ、「単純性血管腫」について調べてみました。

これは、生まれた時から存在する平らなあざで、毛細血管が拡張しているため赤く見えるのです。自然に消えることはなく、大きさ、形、色は様々で、顔面や頭部にできたものが、成人になると盛り上がりやすくなり、まぶたにあるものは、将来視覚障害を引き起こしたりすることもあるそうです。いつ、どこでできたのかわからないこの病気には本当にたくさんの方が悩まされています。

そして、この病気に関する一つのサイトが目にとまりました。それは私と同じ「単純性血管腫」にかかった女性のものでした。その人は私とは逆で右の頬のあざです。今はもう結婚されていますが、高校生の時、人に言われなくなかった言葉は何だと思えますか。

「あざ」のことではなく、意外にも「大変そう」という言葉だったそうです。「大変そう」と言った人は軽い気持ちで言ったのだと思います。しかし、「大変そう」という優しい言葉で、みんなと違っていいことを「大変」にしているのはその人たちです。それは差別、偏見以外の何ものでもありません。

「少しだけ人とは違う」それだけで変な見方をされたり、決めつけられたりするのには悲しくて、悔しくて、とてもつらい気持ちになりました。心の傷としても

残ります。

その女性からみんなへのメッセージがありました。「体にどんな傷があろうと自分は自分。自分の意志を持って自分の足で一步一步未来に向かって歩いてください」と。私はこの言葉にとっても励まされ、少しずつですが、勇気がわいてきました。

みなさん、みなさんは、自分と違うものの、顔、体、性格、考えの違いなど、違いを受け止めることができますか。違うことだけを問題にして、自分や周りの人の良いところを見逃していませんか。

みんな一人一人の素晴らしい個性があります。生まれた時から変わらないもの、心と体が成長する中で、新しく創りあげてきたもの。その一人一人の違いを大切な個性として、お互いに受け止め、認め合い、尊重し合うことが、みんなの幸せ、明るい社会づくりにつながっていくのではないのでしょうか。

私は、人と違うものを持っていきます。しかし、こんな病気や人の偏見・差別に負けず、自分は自分と受け止め、周りの人、みんなと支え合いながら未来に向かって前進し続けようと思います。

審査講評

審査委員長 蒲原 由和

いろいろな悩みやストレス、組織に対する複雑な想いなどが込められて、いずれも率直にそれぞれの作品に現れていたと思います。審査にあたっては困難を極めました。単に表現力が豊かであるとか、構成がしっかりしているというだけじゃなくて、それぞれの日々の出来事や身の回りのこと、小さな悩み、家庭のこと、家族のことなど、いろいろな

悩みを持ちながらも、それをいかに乗り越えて克服していくか、あるいはいったか、その糧が身の周りの人達、あるいは社会、学校の仲間たちに良い影響を与えてくれたかなど、そういったところにも審査員みんなが着目したところです。当然主張です。本日の15人の皆さんには見事に

盛り込まれていました。県知事賞を受けられた中村愛実さんも同様であり、自分の身体の悩みを率直に語りかけることによってそれを乗り越えて、前に進むという気持ちには非常に我々の胸に迫るものがありました。自分も乗り越えていくだけでなく周りの人たちにも勇気を与えるものでした。選に漏れた仲間の作品にも心に残った作品が沢山あります。その作品を是非本日の大会が終わっても家庭や学校に持ち帰って改めてかみしめていただければと思います。

審査委員会特別賞



八尋 南美さん
(幸袋中学校3年)

「Change the Fukuoka」

優秀賞第一席



戸根 瞳さん
(泉中学校2年)

「時の大切さ」

県教育委員会賞



野瀬由理菜さん
(中間東中学校3年)

「神様がくれたもの」

「家庭の日」・「オアシス運動」入賞作品紹介

県民会議が普及をすすめる「家庭の日」・「オアシス運動」をテーマにした作文とポスターを募集したところ、430点の作文と324点のポスターの応募がありました。第一次審査、第二次審査を経て、それぞれ、最優秀賞1点、優秀賞5点、奨励賞20点が選ばれました。ここでは、最優秀賞に選ばれた作品を紹介します。

◇作文の部 最優秀賞◇

誕生会

芦屋町立芦屋中学校二年

松井 紗和子

私は誕生会とは、生まれたことを祝ってもらおうものだと思ってきた。しかし、今年の二月、その考えは変わった。

私には二人の祖母がいる。一人は母方の祖母で、一緒に暮らしている。もう一人は父方の祖母で、私の家の隣に父の兄の家族と一緒に暮らしている。

私達二家族は、お正月やお盆などの年中行事には、どちらかの家で食事会をしたりして、一緒に過ごしている。

なかでも私が一番楽しみにしているのは、誕生会だ。大人の誕生会が二人ずつ同じ月なので、毎回その月は二家族で外食して、その後どちらかの家でケーキを食べたり、ゲームをしたりしている。この誕生会は、私が幼い頃からしている。私達家族ならではの恒例行事である。

ところが、今年の二月、一緒に住んでいる祖母が骨折のため入院して参加でき

なかった。しかも、その回は祖母二人が主役の誕生会だったのだ。主役がいない誕生会はとても寂しいものとなってしまった。

日頃、祖母に注意されると、ついかっとなつて反抗してしまう。そして毎回ケンカになる。その後は決まって、祖母が母に報告し、私は母からも怒られることになるのだ。これが毎日のようにくり返される。

でも、その日初めて祖母がいないことの寂しさを実感した。そして、改めて誕生会というものの意味を考えてみた。

誕生会—それは、生まれたことへのお祝いという意味もちろんあるが、自分を産んでくれたことに感謝する会でもあると思った。

私がこの存在するのは、父や母のおかげであり、父や母の存在もまた、祖父や祖母のおかげである。このように、たくさんの人々の命のつながりがあったから、今、私が存在するのだ。

だから、これから誕生会では、自分の命の重みを感じ、家族へ感謝する日にした。

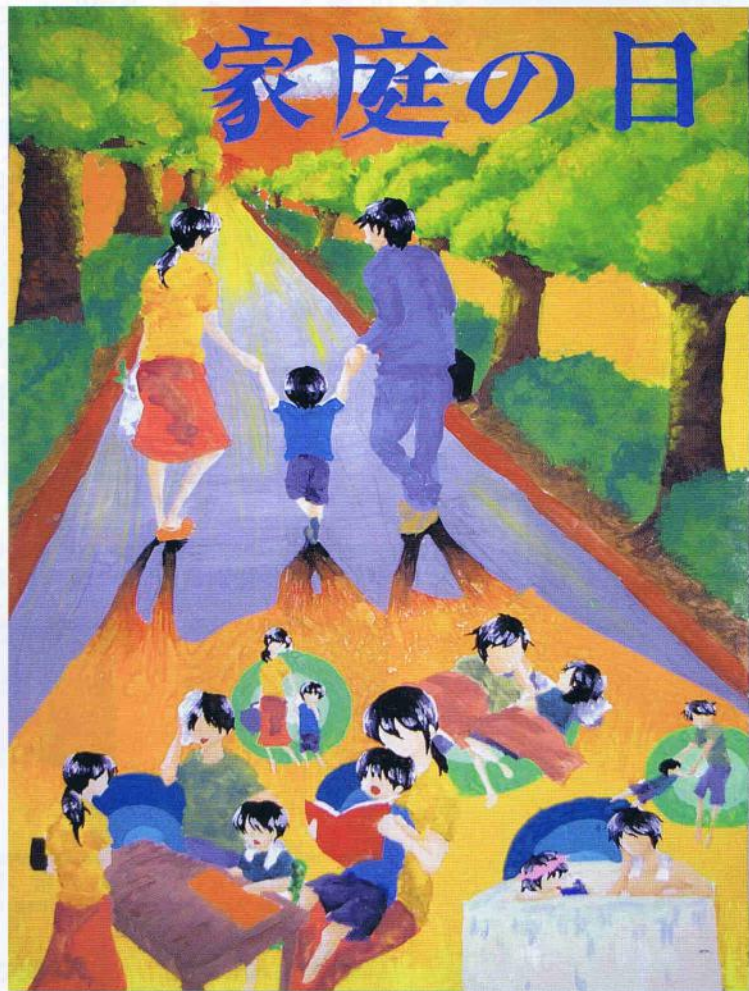
私達家族にとつては、この誕生会が、家族の絆を深める日になっている。だから、これからもずっと、この誕生会を家族みんなで続けていきたい。

そのために、祖母達には長生きしてもらいたい。誰かの誕生日のときは、とびっきり祝ってあげたいし、私が誕生日の時は、たくさんの人に感謝しよう。

◇ポスターの部 最優秀賞◇

宗像市立河東中学校2年

坂田 七海



◇作文の部 優秀賞◇

- みやま市立下庄小学校1年 中山 聡太
- 行橋市立延永小学校3年 井手ロティナ
- 苅田町立白川小学校6年 中西真衣加
- 芦屋町立芦屋中学校2年 内海 愛梨
- 遠賀町立遠賀中学校3年 近藤 妃乃

◇ポスターの部 優秀賞◇

- 中間市立中間東小学校2年 福江友李矢
- 久留米市立津福小学校3年 池田 巨輝
- 遠賀町立浅木小学校6年 西依由里香
- 宗像市立河東中学校2年 中山 莉花
- 福岡県立嘉穂総合高等学校2年 香田 美優

地域の話題

「あいさつ、声かけ運動」

街頭啓発を実施

宇美町青少年育成町民会議

本町民会議では、人と人とのコミュニケーションの原点である「あいさつ」を重要課題として、家庭・学校・地域が一体となり気軽に挨拶ができる、明るく住みよい宇美町を目指して平成19年度に「あいさつ・声掛け運動宣言」を行い、継続推進しています。

平成23年度についても更なる「あいさつ・声かけ運動」の広がりを目的として平成24年3月7日(水)早朝の通学通勤時間に、JR宇美駅前広場で街頭啓発を実施しました。

当日は多数の構成団体からの参加があり、啓発ジャンパー、たすきを身にまとい、町民と「あいさつ」を交わしあい、子どもたちに笑顔で「学校がんばってね」などの「こえかけ」を行いました。



糸田町青少年健全育成推進会議

創立30周年記念行事

国際交流高校生が集いin田川

糸田町青少年健全育成推進会議

糸田町国際交流振興会40周年と糸田町青少年健全育成推進会議創立30周年と共催で招聘するオイスカ西日本研修センター（10か国一地域）から来町する海外研修生との田川市郡内（5校）の高校生との記念交流が催されました。



最初に、ニュースポーツで交流を図り、次に名刺交換、班別トーク、茶話会など、片言の日本語とあやふやな英語でコミュニケーションをとり、とても和やかな雰囲気でした。そして、海外研修生の自国の踊りや遊びを一緒に楽しんでもいました。海外研修生、高校生にとって良い思い出になり、これからの人生にとって大きな財産となることでしょう。

全員参加が自慢です！

第20回岡垣町青少年の主張大会

岡垣町青少年健全育成町民会議



町民会議では①校区育成活動 ②通学合宿「夢の体験塾」 ③青少年の主張大会を3本柱に事業を行っています。青少年の主張大会には小・中学校の協力を得て、5・6年生と中学生全員が参加します。日頃思っていることや意見を作文にし、予選会を行って5校区で代表各3人を選出。青年2人を合わせて17人が毎年9月23日に岡垣サンリーアイで発表を行います。全員参加がこの大会の自慢です。当日は中学生の司会で進行し、発表内容やその態度に会場の人たちは感動し、思わず涙することもあります。もっと多くの人たちに聞いてほしいとPRに努めています。

事務局だより

主な行事 (7月24日以降、11月15日まで)

- 7月：少年の主張第1次審査
- 19日(木) 「野外学習」下見
- 23日(月) ジュニアリーダー養成事業
- 24日(火) 業実行委員会
- 26日(木) 青連協常任委員会
- 30日(月) 少年の主張第2次審査
- 第2回福岡県少年囲碁大会 実行委員会
- 8月：小・中・高校生等をつなぎ育てる、野外学習
- 1日(水) 5日(日) 福岡県少年囲碁大会
- 18日(土) 少年の主張福岡県大会
- 19日(日) 青年リーダー研修実行委員会
- 21日(火) ジュニアリーダー研修実行委員会
- 23日(木) 第3回理事大会
- 31日(金) 青連協8月定例常任委員会
- 9月：第6回広報部会 (以除10/9・23・30(11/6・19))
- 10日(月) 青年リーダー実行委員会
- 18日(火) 青連協9月定例常任委員会
- 24日(月) ジュニアリーダー実行委員会
- 29日(土) 30日(日) 青年リーダー養成研修会
- 10月：マラソン事務局会議
- 10日(水) 家庭部会
- 11日(木) ジュニアリーダー養成実行委員会
- 12日(金) 「作文」第2次審査

ありがとう
愛ちゃん と 希望くん

この広報紙は、共同募金の配分を受けて発行しています。

- 13日(土) 第5回健全育成部会
- 15日(月) 「ポスター」第2次審査
- 20日(土) 21日(日) ジュニアリーダー養成研修会
- 26日(金) 九州各県県民会議事務局会議
- 29日(月) 青連協10月定例常任委員会
- 11月：マラソン事務局会議
- 1日(木) 少年の主張全国大会
- 11日(日) 県民マラソン大会
- 18日(日) 平成24年度 新賛助会員名簿 (7月〜10月)
- 〈個人会員〉
- 新井 潤 (福岡市)
 - 新井 洋子 (福岡市)
 - 伊東 明子 (福岡市)
 - 今富 健二 (福岡市)
 - 江副 真喜子 (福岡市)
 - 大庭 奈名 (福岡市)
 - 小林 孝行 (太宰府市)
 - 小林 美穂 (太宰府市)
 - 佐藤 俊之 (福岡市)
 - 芝 義勝 (福岡市)
 - 柴田 照子 (福岡市)
 - 白土 聖司 (直方市)
 - 副島 紀身 (太宰府市)
 - 竹永 悟 (福岡市)
 - 田籠 重利 (小郡市)
 - 永野 重仁 (福岡市)
 - 長野 春奈 (福岡市)
 - 中原 千晴 (福岡市)
 - 堀家 克巳 (古賀市)
 - 真子 太 (福岡市)
 - 牟田 加子 (福岡市)
 - 村上 英一 (福岡市)
 - 山根 光世 (北九州市)
 - 吉里 千里 (福岡市)
 - 吉武 寛将 (福岡市)
 - 吉次 恵美 (福岡市)
 - 吉原 陽子 (糟屋郡宇美町)
 - 渡辺 博史 (福岡市)
- 〈団体会員〉
- (社)福岡県労働者福祉協議会 (福岡市)
 - 石橋印刷(株) (福岡市)

広報紙 184号の訂正とお詫び

平成24年7月15日付け発行の広報紙「若いなかま」184号において表紙の「家庭の日・「オアシス運動」最優秀ポスター入選者名が最優秀作文入選者名と間違っって掲載しました。正しい最優秀ポスター入選者は、中間市立中間北中学校3年生 永島舞華 さん。また、最優秀作文入選者は、中間市立中間東中学校1年生 木村直偉 さんです。入選された生徒の方々、関係者の方々には、大変失礼をしました。改めて訂正させていただきます、心よりお詫び申し上げます。

青少年の健全育成のために 賛助会員入会をお願い

次代を担う青少年の健全育成を図るため、県民会議では、少年の主張大会、「野外学習」、マラソン大会など、様々な活動をしています。県民会議の活動に賛同いただく賛助会員の募集を行っています。会費は左のとおりです。電話(092-643-6001)いただければ、資料をお送りいたします。

賛助会員の年会費

- 個人 1口 1,000円
- 法人又は団体 1口 15,000円
- 特別賛助会員 1口 50,000円

納入いただく方法

会費は、社団法人福岡県青少年育成県民会議の次のいずれかの口座に納入していただくか、県民会議事務局に直接ご持参ください。

- 西日本シティ銀行県庁前出張所 (普通預金) 0163919
- 福岡銀行県庁内支店 (普通預金) 526475
- 筑邦銀行福岡支店 (普通預金) 1597091
- 福岡中央銀行本店 (普通預金) 1030569
- 県庁内郵便局郵便為替口座 福岡 01700-5-4057

赤えんぴつ

「パパの将来の夢は？」と、父親に聞く娘。父親は「パパはもう親に聞かなくていいよ」と、一瞬戸惑い言葉の飲み込み。これはある企業のCMの一コマである。記憶にある読者もいるかもしれない。8月18日に行われた囲碁大会の「ふれあい囲碁教室」でも同じような光景を目にした。初心者向けのこのプログラムは安田プロの提案でお互いの対戦相手に名前と年齢、夢を聞いて、対戦が始まる。5歳の女の子や小学生から「夢は何ですか？」と聞かれて、言葉に窮する大人たち。表情はCMのパパに似ていた。私たち大人はいつから夢を語ることをやめってしまったのだろうか。大人になっても夢を持ち続けることが、いかに大切か。CMのパパは、娘に気づかされ「もつと輝いて」といんだ。もつと輝こう！とCMは終わる。自分自身を振り返ると、楽しみや目標はあるが「将来の夢」には前述の大人と同じである。改めて「夢」を探してみる。と、サッカーにひそかな夢を持っている。▼地元チームやサッカークラブでなくヨーロッパのサッカーのファンでもある。▼サッカー発祥の地イングランド・プレミアリーグの試合をライブで見たい。▼8万の観衆に専用スタジアムでマンチェスターユナイテッドのホーム「オールドトラフォード」であればなお良い。▼夢の夢だ、CMの言葉に勇気をもらって、口にする少し夢が近づく気がしてきた。▼夢が夢で終わることもあつと元気になる。想像力を豊かにしてくれる。

広報部会委員 馬場 京子

この用紙は、森林資源保護のため再生紙を使っています。